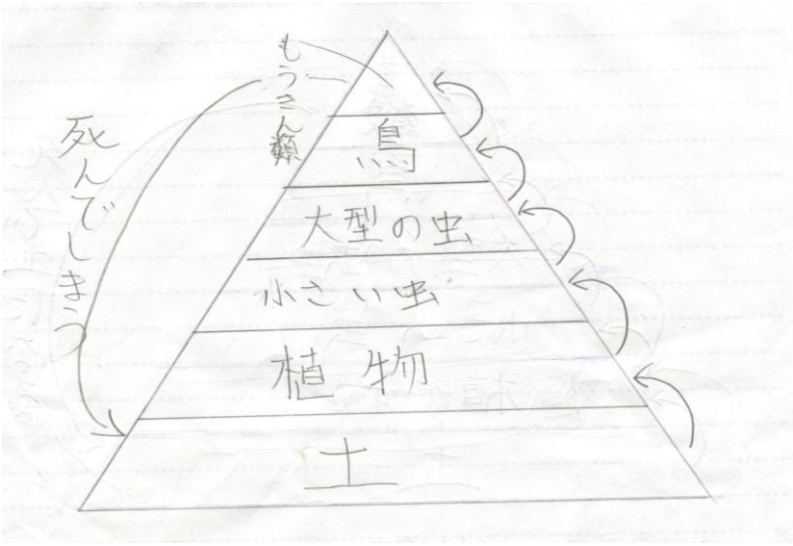
裏磐梯で学んだこと

M・H

僕は、はじめ鳥についても知りたかったです。そのきっかけは、鳥のオオルリの写真をみて、こんな鳥が日本にいるんだ。と思い、鳥のことにも少し興味を持ちました。僕は、オオルリをみたかったのですがオオルリは夏にしかみることができないので、ガッカリしていたのですが、ネイチャーガイドの鈴木さんがオオルリの写真の大きいのをみせてくれました。このオオルリという鳥は腹が白色をしていて顔は黒っぽくなっているけれども、それ以外はほとんど青色になっています。それと、もう一つみてみたかった鳥がいました。その鳥はキビタキという鳥です。実はその鳥も夏にしかみることができませんでした。その鳥は自然学習をやっていてみつけ、その鳥は、みてみると、首のところが赤色をしていて、羽が黄色になっています。僕は、鳥にはいろいろと、特徴があるんだということを気がつきました。鳥にはクチバシがいろいろとあって魚を食べる鳥のクチバシや他にもいろいろとあって、なぜそんなにいろんなクチバシがあるのかというと鳥全てが同じ木の実を食べていると木の実がなくなってしまい、食べれなくなってしまう鳥が増えます。そしたらその鳥は死んでしまいます。なので鳥も虫を食べたり、魚を食べたりする鳥が現れたのではないのかと言っていました。みなさんの身近にいる鳥は、スズメやツバメだと思います。クチバシをみると同じだと思います。皆さんの身近にいるスズメは虫をとるためのクチバシです。なので、長くもありませんし、鋭くもありません。それに比べて水中にいる魚をとる鳥や、木の中で暮らす鳥は、クチバシも違っていて、魚を食べる鳥はクチバシが長く水中にいる魚を取りやすいし、食べやすいです。木に住みついてる鳥はクチバシが鋭くなっています。そして、バードウォッチングで食物れんさについても学びました。食物れんさは、ピリミッド型をしています。



この図は、土は植物を育てて、小さい虫はその植物を食べて、大きい虫はその小さい虫を食べて、鳥は大型の虫を食べ、猛禽類はその鳥を食べて、猛禽類が死んでしまうと土にな

ります。このように自然界では、強いものにはかなわない。なので、生きている方も大変なのです。自然界の弱肉強食の世界では、育てたり、育てられたりと自然だけで行われています。自然界は、このようなことが行われています。僕は、磐梯ではカルガモという鳥しか見れなかったけれども、それも自然界では当たり前だと思いまいた。何故かというと、鳥も自分の身を守るために相手に姿をみせないということがわったし、自然界にいることも楽ではないということが分かったので良かったです。